

「静岡コンクリート診断士会」設立

初代会長に名倉氏

社会的評価と地位向上へ

「コンクリート診断士」の社会的評価と地位向上などを目的に静岡コンクリート診断士会が

設立された。16日に設立総会が静岡市内のあざれあで行われ、名倉昭三氏（須山建設）が初代会長に就任した。

初年度はパンフレットの作成・配付などを予定している。

名倉会長は

「コンクリート診断士の認

知度と資格の重要性を訴え、社会的地位の向上と地域社会に貢献していきたい」と、決意を述べた。また、来賓の福井県コンクリート診断士会の石川裕夏会長は「全国で8番目、東海地区では初めての設立で意義が大きいく、今後は他府県と連携をとりながら全国的な規模で診断士の社会的地位の向上を図っていく」と

とあいさつした。

総会後には、会員の施工技術総合研究所が「河川堤防における樋管・樋門の調査と補修・補強」「塩害による劣化した道路橋の調査と補修」「T型橋脚張出し部におけるひび割れの診断および対策検討」について、記念講演した。

同会は、「コンクリート診断士」の社会的評価と地位の向上と診断士によるコンクリート診断技術の普及と向上によるコンクリート構造物の維持管理に貢献することを目

的に、正会員16人と賛助会員5社でスタートした。

なお、副会長に神原勲氏（五光建設）と板倉孝氏（東日）が、監事に荒木敏三氏（中村組）がそれぞれ就任した。



決意を述べる名倉氏